

改善報告書

令和7年7月17日

1. 大学名：名古屋産業大学

2. 認証評価実施年度：令和4年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2－1

○学年進行中の経営専門職学科において、在籍学生数が入学定員の合計の0.5倍未満であるため改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

経営専門職学科は、令和3（2021）年度に新設された日本初の経営専門職学科であり、学年進行と共に教育内容が段階的に整備・拡充されてきた経緯を有する。完成年度より前の段階では、教育内容や学びの成果を十分に可視化できなかったことから、高校生や高校教員にとっては未知の要素が多く、入試広報活動には苦戦を強いられてきたのが実情である。

このような状況を打開するため、本学では、高校生の興味関心を直接的に刺激する形で、次のような施策を展開してきた。

- 教育活動や関連行事のHP等での情報発信とPR
- 高大連携商品開発の推進
- 高校生がビジネスアイデアや取り組みを発表する「未来のビジネスデザインコンテスト」の開催
- SDGsの視点を持って経営ができる人材の育成を目的とした「SDGs入試」の新設

これらの取組により、令和7年度の入学定員充足率は、前年度の0.33倍から0.48倍と改善傾向にある。

一方、同学部の現代ビジネス学科においては、入学定員充足率が1.0倍を安定して超えており、特色や就職実績といった教育成果が広く認知された結果と考えられる。経営専門職学科においても、教育成果が社会的に十分に認知されれば、同様の効果が期待できると判断している。

令和6年度に経営専門職学科は完成年度を迎え、令和7年度からは、同学科の学びの最大の特徴である3カ月間の臨地実務実習を含む全カリキュラムを修了した卒業生の実績が蓄積される。これにより、これまでに比べて一層具体性を持った広報活動が可能となる。

【令和7年度の主な改善点】

こうした背景を踏まえ、令和7年度においては、以下の6つの取組を主軸とし、教育内容と成果の可視化、志望者層の拡大、高校教員・高校生への効果的な情報伝達を一体的に進める。

1) 【新規】卒業生の声を活かした教育成果のPR【資料2-1-1】

学生の授業満足度、成長実感、就職活動への活用、卒業後の自己評価などを卒業時アンケート及びインタビューにより可視化した報告書を作成し、進路指導教員向けの資料として配布する。今後のオープンキャンパスや高校訪問の場面でも重点的に活用し、教育成果の外部認知を一層促進する。

- ①経営専門職学科の授業に対する満足度
- ②長期インターンシップに対する満足度
- ③大学4年間での成長実感
- ④後輩や未来の学生へのPRポイント、メッセージのまとめ
- ⑤その他自由記述のまとめ
- ⑥卒業後のインタビュー調査～大学で学んだことが就職先でどう生きているか？

2) 【新規】臨地実務実習の成果の発信【資料2-1-2】

令和6年度に実施された3か月間の臨地実務実習について、「インターンシップ実施報告書2024」にまとめた。これらの実習の様子や成果などを情報発信ツールにおいて適宜、発信するとともに、入試広報の重点校へ配布することにより教育成果をPRする。

3) 【強化】教育活動や関連行事の動画による情報発信とPR【資料2-1-3】

総務省等の調査によれば、高校生は娯楽目的のみならず、情報収集や学習の手段としても動画を視聴する時間が長く、動画は日常生活において重要な情報メディアとして定着している。このような状況を踏まえ、本学では、これまでの文字情報や静止画による情報発信に加え、動画を活用した広報活動を強化している。

具体的には、InstagramやTikTokといった動画配信に適したSNSを活用し、経営専門職学科の授業風景や高大連携活動、公開講座、キャンパスライフ、オープンキャンパスの様子などを動画で編集し、定期的に配信している。これにより、高校生が実際に本学で学ぶ姿を具体的にイメージしやすくなり、教育活動への親近感を高める効果があると考えている。

4) 【強化】高大連携商品開発の拡充【資料2-1-4】

経営専門職学科では、商品開発をテーマとした高大連携活動を積極的に推進している。特に、授業や探究活動の中で商品開発を扱う高校（商業高校・総合学科高校・通信制高校など）を対象に、本学教員が出前授業を実施し、地域課題やSDGsを意識した商品企画・開発の指導を行っている。

令和6年度は、通信制高校・商業高校等を中心に10校以上に対し出前授業を実施し、高校生の課題解決型学習への参加を支援するとともに、本学経営専門職学科の特色ある実践的教育内容を体験的に伝える機会として活用している。このような活動は、単なる広報に

とどまらず、高校の教育課程との連携・補完を図る教育的価値をも有しており、将来的な志願者獲得にもつながると考えている。

今後は、対象校の拡充とともに、高校生との協働で開発した商品や成果物の展示・発表の場を設け、大学教育との接続可能性をさらに高めていく予定である。

5) 【強化】「未来のビジネスデザインコンテスト」の拡充【資料 2-1-5】

経営や地域課題への関心を持つ高校生が、自らのアイデアを発表できる場として、同学科の学びの実践性を体験的に訴求する。同コンテストの継続実施と参加校の拡大、さらに報告書を通じた教育成果の対外発信を強化する。

6) 【強化】「SDGs 入試」の運用強化と特待制度の活用【資料 2-1-6】

SDGs に関心を持つ高校生を対象に創設した「SDGs 入試」において、成績優秀者に対する入学半額免除制度を活用し、「社会課題に対して主体的に行動できる人材」を惹きつける制度としての発信力を高める。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-1 の資料

- ・【資料 2-1-1】2024 年度卒業時アンケート自由記述及び卒業後インタビュー調査結果報告書
- ・【資料 2-1-2】名古屋産業大学インターンシップ実施報告書 2024 年（第一章抜粋）
- ・【資料 2-1-3】教育活動や関連行事の動画による情報発信と PR
- ・【資料 2-1-4】高大連携商品開発のチラシ
- ・【資料 2-1-5】未来へのビジネスデザインコンテストちらし
- ・【資料 2-1-6】2026 年度学生募集ガイド（SDGs 入試抜粋）

改善報告書

令和7年7月17日

1. 大学名：名古屋産業大学

2. 認証評価実施年度：令和4年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：5－3

○監事の監査報告書について、監事が出席しているにも関わらず、理事会・評議員会で審議・決定していることは、監事監査の趣旨及び監事の牽制機能の観点から適切ではないので、改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目5－3について

監事監査の趣旨及び監事の牽制機能の観点を踏まえ、令和5年5月19日開催の理事会及び評議員会において、理事会で決算承認を行い、評議員会に報告し、その意見を求めた後、監事から理事会、評議員会にて令和4年度の監査結果が報告された。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目5－3の資料

- ・【資料5-3-1】令和5年度理事会（5月開催）議事録
- ・【資料5-3-2】令和5年度評議員会（5月開催）議事録